

第119回日本皮膚科学会総会 を終えて

(2020年6月4～7日)

高橋 勇人（専任講師） 天谷 雅行（教授）

慶應義塾大学医学部皮膚科学教室

はじめに

2020年6月4～7日にかけて、第119回日本皮膚科学会総会を開催させていただきました。本学会は日本皮膚科学会の長い歴史の中で、初めて完全Web開催された学会となりましたが、約5,900人のご参加をいただきました。

本稿では当初予定されていた現地開催から完全Web開催への変遷を含め、本学会の報告をさせていただきます。

本学会のテーマ「つなぐ」とポスター

本学会の開催準備を始めるにあたり、まず初めに本学会のテーマを「つなぐ」と設定いたしました。人と人をつなぐ・つながる、時間・空間を超えてつなぐ・つながる、さまざまな「つなぐ」がありますが、その中でも、人がつながることでどれだけ強くなれるか、ということをイメージして付けたテーマでした。そして、この「つなぐ」「つながる」気持ちを念頭に各プログラムの詳細を検討させていただきました。

ポスター(図1)には、書家の川尾朋子さん作の『つなぐ』に、色彩作家の内藤麻美さんが皮膚の構造をイメージした色をつけていただきました。ポスター印刷では表現しきれない色調や微妙な筆使いが原画にはあり、可能であれば学会会場に飾って、参加者の皆さんにも作品を楽しんでいただきたい思いでございました。



図1 第119回日本皮膚科学会総会ポスター

現地開催からハイブリッド開催、そしてWeb開催へ

国立京都国際会館での開催を予定していた本学会の企画は、2018年の秋ごろより準備を始め、各国より各分野の著名な皮膚科医をお呼びして、日本皮膚科学会会員の皆様が満足いただけるようなプログラムになるよう検討を重ねてきました。

2020年1月に入り国内でも新型コロナウイルス感染症の発生・拡大を認めるようになり、2月下旬には現地開催とWeb開催を合わせたハイブリッド

開催の可能性を検討し始めました。3月に入り、予定されていた各種講演会や学会が中止・延期となる中、開催予定の6月には多くの参加者と発表者が京都に行くことが困難となることが予想されたため、ハイブリッド開催とはいうものの、現地に行かなくてもほぼすべての講演にインターネットを通じてアクセスし、日本皮膚科学会会員が専門医のクレジットを取得可能になる内容を検討しておりました。

また、日本より先行して感染拡大を生じた世界各国の海外招待演者の多くが来日できないことが予想されましたので、事前に講演内容をビデオで送付いただくようにし、最大限プログラムが維持できるように努めました。

現地開催の部分に関しては、コロナウイルスの感染機会となりやすい会員懇親会を含む会食を中止とし、企業セミナーは会話禁止のうえ座席間隔を開けて開催するなどの感染予防対策を立てる予定でございました。

しかし、4月7日には7都道府県の緊急事態宣言が発令され、現実的に首都圏から京都への移動が困難となり、4月14日の理事会にて本総会の完全Web開催が審議・承認されました。

発表プログラム

完全Web開催においても、学会としてもっとも重要なコンテンツは発表演題であるため、予定していた演題が最大限発表されることを最優先いたしました。すでにハイブリッド開催を検討する段階で、教育講演と一般演題については、事前登録した動画を配信することで、発表当日の混乱を回避し、スムーズに参加者が聴講できることを目指しておりました。

本来であれば、生中継で発表者と質疑を行うことが理想的ですが、今回初めてのWeb開催を目指すわれわれ事務局にとっては、第13会場まである総会の全会場での生中継を短期間で準備することが困難であったこともあり、質疑に関しては、限定して行うことといたしました。通常の学会では不要な動画ファイルの作成が今回のWeb開催には必要であったため、発表者の皆様からどの程度の動画

をご提出いただけるかわかりませんでしたが、中止となったセッションを除き、国内からは教育講演を含めた指定演題235演題中実に229演題、一般演題128演題中111演題のご登録をいただき、ほとんどのセッションを予定通り開催することができました。

ポスター発表においても予定の9割の方が(日本語415演題、英語75演題)デジタルポスターを登録くださいました。全国で新型コロナウイルス対応が必要であった困難な時期にもかかわらず、時間を割いて動画ファイルやポスターのご準備をしてくださった発表者の皆様に心より感謝いたします。

Live 講演および Live 質疑

多くのセッションが動画配信となる中で、少しでも演者と近い距離感をもって講演をご視聴いただくため、会頭講演「つなぐ」を皮切りに社会的関心の高いテーマとして、当初予定していなかった白木公康先生、山岸由佳先生、宮沢孝幸先生による新型コロナウイルス感染症対策・緊急シンポジウムを、また染谷隆夫先生、宮田裕章先生、近藤正晃ジェームス先生による特別招聘シンポジウム「テクノロジーの発展、そして社会危機の中で変わる社会と医療(未来につなぐ)」、宮脇敦史先生による特別招聘講演3「表在性深部組織器官としての皮膚の構造と機能を可視化する光技術」をプレナリーセッションとして生中継で配信いたしました。いずれも2,000を超えるアクセス数を記録し、現地開催だとすると1,840名定員の第一会場に入りきらない方にご視聴いただき好評を博しました。

一方、Alexander Enk先生による土肥記念国際交換講座「Allergic contact dermatitis—a model for the Yin/Yang principle of cutaneous immune reactions」、Pascal Joly先生による特別招聘講演4、皆見省吾記念賞受賞記念講演、会頭特別企画1・3・4、「Lectures in English 2」「実践！ダーモスコピー道場」は事前収録された動画を配信するのに加え、座長や演者はLiveでご参加いただき、適宜質疑応答を行いました。Liveでの配信部分が加わることで、動画配信のみとは異なり、より臨場感のあるセッションを開催することができました。これらの配



図2 事務局配信基地の様子



図3 会頭为天谷雅行(慶應義塾大学医学部皮膚科学教室の特設スタジオにて)

信は主に文京区本郷の日本皮膚科学会(JDA)事務局に設置した配信基地(図2)と一部、慶應義塾大学医学部皮膚科学教室の特設スタジオ(図3)から行われました。

企業セミナー，企業展示

協賛企業によるセミナーも現地開催からWeb開催に大きく形式が変わったにもかかわらず，多くの企業の方にご参加いただき，ほぼ予定通りのプログラム内容で開催していただきました。お弁当の支給がない状況であっても，参加者の興味を引く演題が多く，また自宅からアクセスできる利点も生かされ，モーニングセッションから盛況で，現地開催よりも多いアクセスがあったセッションも多くみられました。

また，企業展示も多くの企業のご協力のうえバーチャル空間での展示に変更させていただき，多数の参加者に閲覧いただきました。当初予定していた形式と大きく変更があったにもかかわらず，快くセミナーと展示を開催してくださいました企業の皆様に心より感謝いたします。

英語会場

総会の国際化を推進するうえで，海外からの参加者が総会を楽しめるようにと，第118回総会より会期中常に英語で発表される会場が設置されるよ

うになりました。本年度もさらに充実したプログラムや、海外参加者へのトラベルグラントを準備し、海外参加者が大幅に増加する予定でしたが、残念ながら、今回は海外非会員の方はWeb開催に参加していただくことができませんでした。

予定していたEditor's clubやAdvances of Dermatology in Asia-Oceania Areaでは海外から皮膚科関連の学術誌のエディターやアジア・オセアニア地区の皮膚科学会の代表をお呼びしてJDA会員との交流を深めていただく予定でしたが、残念ながら中止となりました。これらの企画は来年以降も継続的に開催される予定ですので、さらに有意義な形に変わっていくものと思います。

Stephen I Katz Memorial Special Lectures, デルマトオーケストラ&コーラス

本学会のメインイベントとして、2018年12月20日に逝去されたStephen I Katz先生を偲んで企画された「Stephen I Katz Memorial Special Lectures」と浜松医科大学の戸倉新樹先生が中心となって編成されたデルマトオーケストラ&コーラスによるベートーベン・第九の演奏が計画されておりました。

新型コロナウイルスのために、海外からお呼びしていた演者の来日が叶わなかったことと、演奏・合唱が不可能となってしまったため、第119回総会では両者とも開催ができませんでした。第120回の総会において開催予定となっております。私たちも是非楽しみにしたいと思っています。

おわりに

第119回日本皮膚科学会総会は、予期せぬ社会情勢の変化により、学会そのもののあり方に関して大きな変化を迎えました。とくにWeb会議の利点と欠点を一気に味わうことになりましたが、今後はとりわけ利点を生かした学会のあり方に変わっていくのではないかと思います。

この困難の極期における本総会の開催は、動画やポスターをご登録いただいた演者の皆様や協賛いただいた企業の皆様、そして慶應義塾大学医学部皮膚科学教室および同窓会の皆様、日本皮膚科学会事務局の皆様の協力なくしては実現できませんでした。心より感謝申し上げます。

皆様、本当にありがとうございました。